

2019年6月1日(土) 東奥日報 16面

■大学院理工学研究科1年 稲川正浩さん(北海道出身) 昨年6月に仙台市で開催された第30回知能ロボットコンテストに、学内サークル「競技ロボット製作所」のリーダーとして出場。コース内に散らばったボールをゴールに運ぶ速さと正確さを競う種目で、高い技術力が評価され「あすなる賞」を受賞。チームは平成30年度の弘大学生表彰を受けた。



少子高齢化の諸問題を解決する手段としてロボット開発の研究に取り組み「弘前大学には、さまざまなことを学ぶことができる環境があります」と話す。

大学院での研究テーマとして、文字で書かれたレシピから調理可能な料理ロボットを開発中。「10月にはロボットが実際に調理する様子をお披露目する場を企画しています」と意欲的だ。

料理するロボット開発中

充実 キャンパスライフ

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp